

持続可能な開発目標(SDGs)に 関する経団連の取り組み状況

2018年12月
一般社団法人 日本経済団体連合会

Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成 「Society 5.0 for SDGs」

「企業行動憲章」の改定

フォローアップ

企業行動憲章に関するアンケート調査を実施

- ・共通する課題解決に向けた取り組み（インパクト評価、ESG価値創造等）
- ・さらなる理解・浸透のための活動

SDGsに資するイノベーション事例の収集

- ・国内外への情報発信
- ・連携のプラットフォームづくりの支援

Society 5.0

—ともに創造する未来—

2018年 11月 5日

一般社団法人 **日本経済団体連合会**

世界に迫る大きな変化の波

- いま世界には、大きな社会変革につながる「技術的变化」、経済の重心がシフトする「経済・地政学的変化」、地球環境等の問題を踏まえた「マインドセットの変化」など、急激な変化の波が迫っている。



技術的变化

AIやIoTなどのデジタル技術やバイオテクノロジーの革新



経済・地政学的変化

世界経済の中心がアジア(中国、インド、ASEAN)に急シフト
少子高齢化や人口爆発など人口動態の激変



マインドセットの変化

地球環境など世界規模の問題深刻化によるSDGs等への取り組み重視

変化には**リスク**だけでなく**機会**が伴う。

想像力を働かせて未来を切り拓いていくことが重要。

日本の未来は暗くない

世界の変化を活かせる千載一遇のチャンス



技術的变化



IoTの進展により主戦場となるモノの技術に強みがある



経済・地政学的変化



成長するアジアに位置し欧米とも緊密な関係



マインドセットの変化



「三方良し」「もったいない」など社会や自然に根差した文化

課題先進国から課題解決先進国へ



山積する課題
今そこにある危機



課題解決の宝庫
社会を変える想像力の源

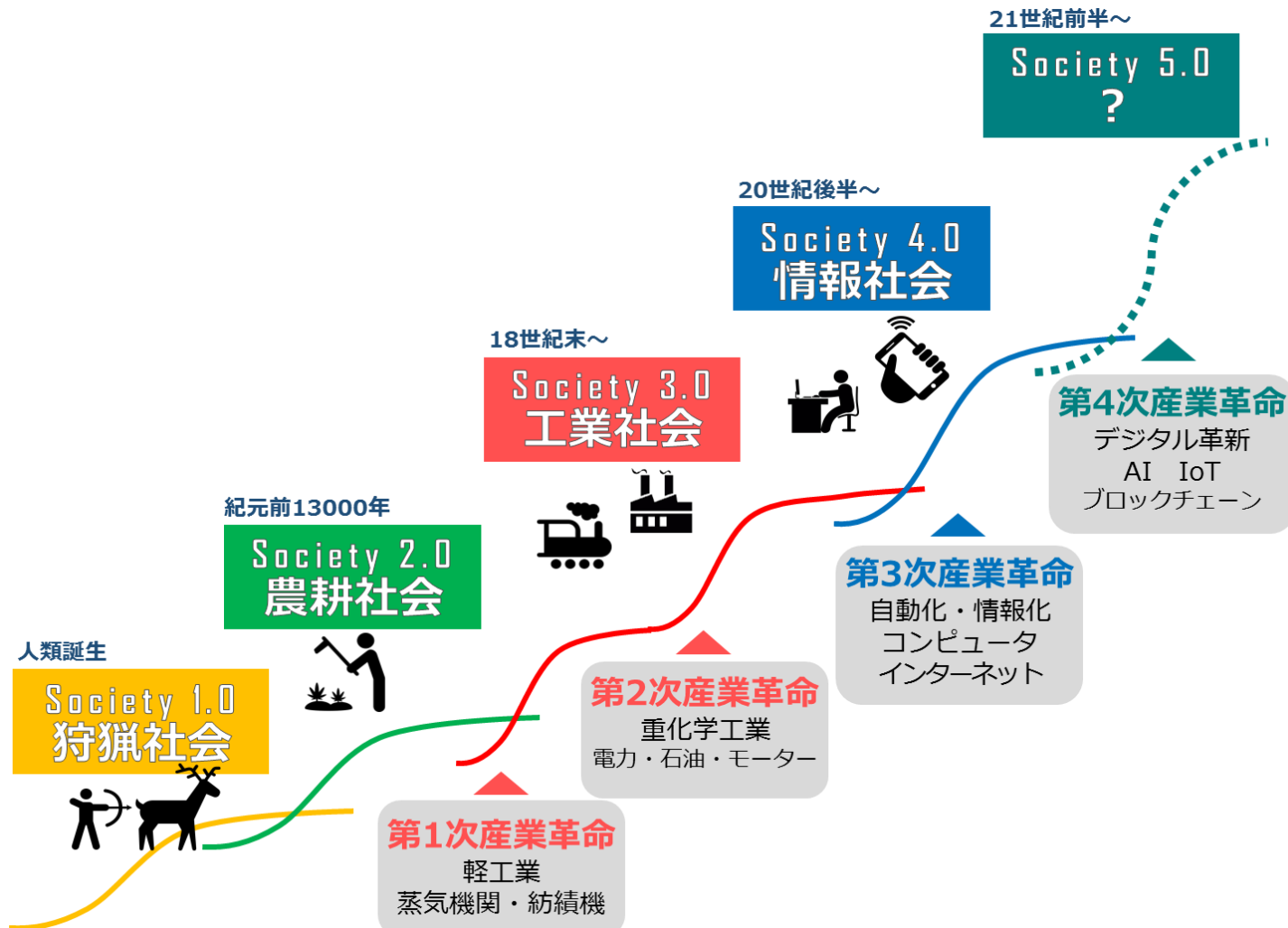


日本に求められるのは、日本自身が「明治維新」や「戦後復興期」に匹敵する大変革を遂げ、世界の変化を主導すること。

日本が世界に提示する新たな社会のコンセプト「Society 5.0」の実現に向けて取り組みを加速させていくことが必要。

情報社会の次の段階へ

- 人類社会は、狩猟社会→農耕社会→工業社会→情報社会と発展してきた。
- 今、デジタル革新(デジタル・トランスフォーメーション)をきっかけに第5段階の新たな社会(Society 5.0)への変革のときを迎えている。



デジタル革新の波

- 社会が変化する大きなきっかけとなるのはデジタル革新(デジタル・トランスフォーメーション)である。個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が根本から変わる。
- デジタル技術の使い方によっては格差拡大などの影の部分も生じうる。デジタル革新を利用してどのような社会を創っていきたいのかが重要。

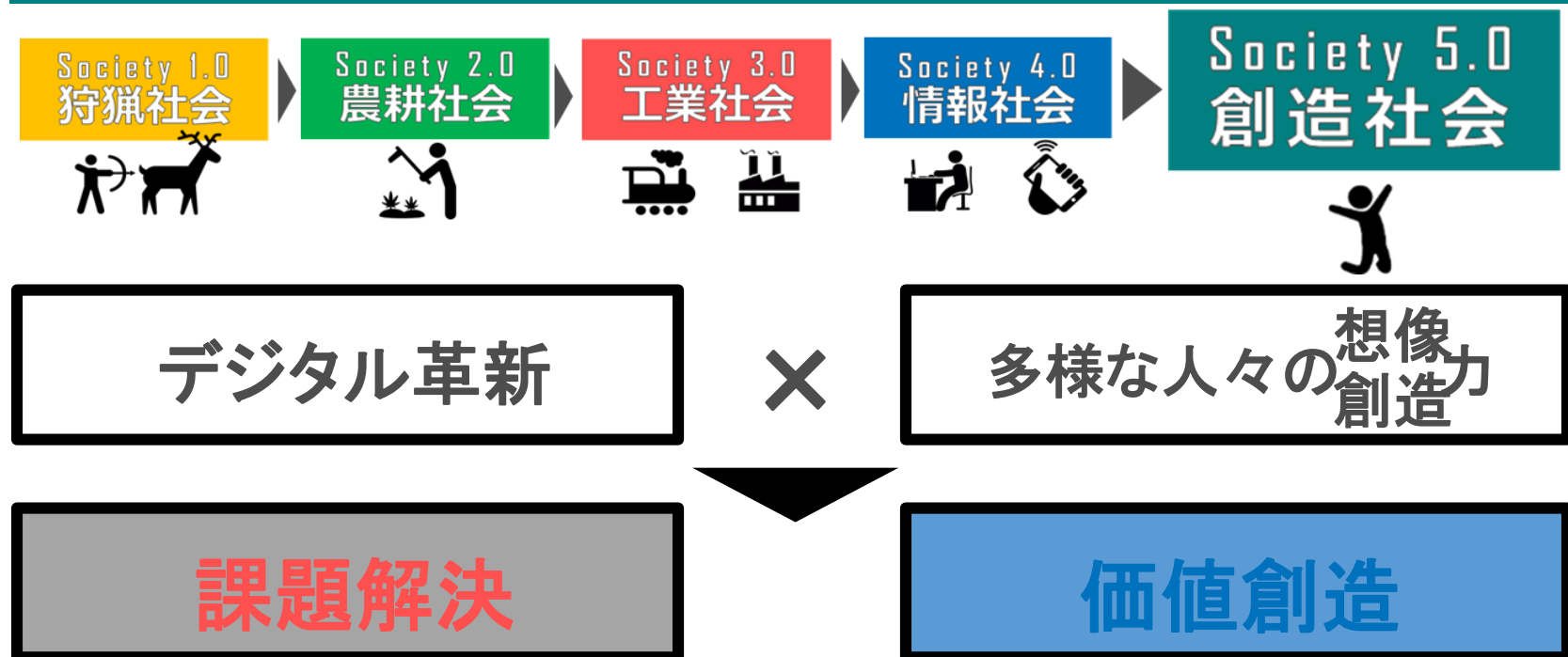
デジタル革新 = デジタル技術とデータの活用が進むことで、個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が大きく変わること。
IoTやAI、ロボット、ブロックチェーン等の技術がデータを核に駆動し、社会を根本から変える。

IoT	あらゆるモノがインターネットに接続され、センサーなどからリアルタイムにデータが収集できるようになる。デジタル革新の対象があらゆるモノ・ヒト・コトに広がる。
AI(人工知能)	AIは適切に設計して運用されれば、非常に複雑な問題も解決できる。人間が行ってきた業務の多くは、AIによって自動化することが可能となる。AIの本質は「能力の流通とコモディティー化」である。
ロボット	AIの能力は、ロボットによってフィジカル空間で発揮される。さまざまなモノが知能を有するようになり、社会のスマート化が進んでいく。
分散台帳技術	ブロックチェーンなど分散台帳技術は、効率的な取引や追跡可能性の向上に大きな影響を与える。信用や信頼の新たな形をもたらす。

Society 5.0は「創造社会」

- デジタル革新を人々の多様な生活や幸せの追求のために活用すべき。
- 今後、人々には世の中を変える「想像力」と「創造力」が必要。
- Society 5.0とは創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。

Society 5.0



Society 4.0から5.0への変化

- Society 5.0で目指す社会は、「課題解決・価値創造」「多様性」「分散」「強靱」「持続可能性・自然共生」などがキーワードとなる。
- さまざまな制約から解放され、誰もが、いつでもどこでも、安心して、自然と共生しながら、価値を生み出す社会を目指していく。

～ Society 4.0

Society 5.0 ～

規模拡大
効率性

効率重視からの解放

課題解決・価値創造
“価値を生み出す社会”

均一性

個性の抑圧からの解放

多様性
“誰もが多様な才能を発揮できる社会”

集中

格差からの解放

分散
“いつでもどこでも機会が得られる社会”

脆弱

不安からの解放

強靱
“安心して暮らし挑戦できる社会”

環境負荷大
資源多消費

資源・環境制約からの解放

持続可能性・自然共生
“人と自然が共生できる社会”

制約からの解放を実現していく

● 効率重視からの解放→価値を生み出す社会

これまで: 大量生産・大量消費による規模拡大と効率性、従来のルールや計画の遵守
これから: ひとつひとつのニーズに応え、課題を解決し、価値を創造すること

● 個性の抑圧からの解放→誰もが多様な才能を発揮できる社会

これまで: 標準化されたプロセスに同化した平均的な生き方
これから: 多様な人々が多様な才能を発揮し、多様な価値を追求

● 格差からの解放→いつでもどこでも機会が得られる社会

これまで: 富や情報は一部に集中し、格差が拡大
これから: 格差を放置せず、富や情報が社会で循環・分散

● 不安からの解放→安心して暮らし挑戦できる社会

これまで: 自然災害、治安悪化、テロ、サイバー攻撃など脆弱性が顕在化
これから: 多様化・分散化が進んだ新たな社会基盤により強靱性が高まる

● 資源・環境制約からの解放→人と自然が共生できる社会

これまで: 地球環境への負荷が大きな、資源多消費型のモデルに依存
これから: 持続可能な社会となり、多様な地域で自然と共生しながら暮らせる

Society 5.0 for SDGs

- Society 5.0で、生活や産業のあり方は大きく変わる。
- 社会課題解決や自然との共生を目指すSociety 5.0は、国連が採択したSDGsの達成にも貢献。変革の方向は軌を一にしている。
- Society 5.0 for SDGsの具体的な姿として、本提言で9の分野を例示。

Society 5.0

〔9の分野〕

- ①都市・地方
- ②エネルギー
- ③防災・減災
- ④ヘルスケア
- ⑤農業・食品
- ⑥物流
- ⑦ものづくり・サービス
- ⑧金融
- ⑨行政

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



出典：国連広報センター

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/

経団連はSDGsを支援しています。

Society 5.0 for SDGs

■ 経団連はSociety 5.0によるSDGs(持続可能な開発目標)達成への貢献を主張



2017年11月8日改定

企業は、公正かつ自由な競争の下、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、**持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う**。そのため企業は、国の内外において次の10原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 持続可能な経済成長と社会的課題の解決

2. 公正な事業慣行

3. 公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話

4. 人権の尊重

5. 消費者・顧客との信頼関係

Keidanren
Japan Business Federation



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

6. 働き方の改革、職場環境の充実

7. 環境問題への取り組み

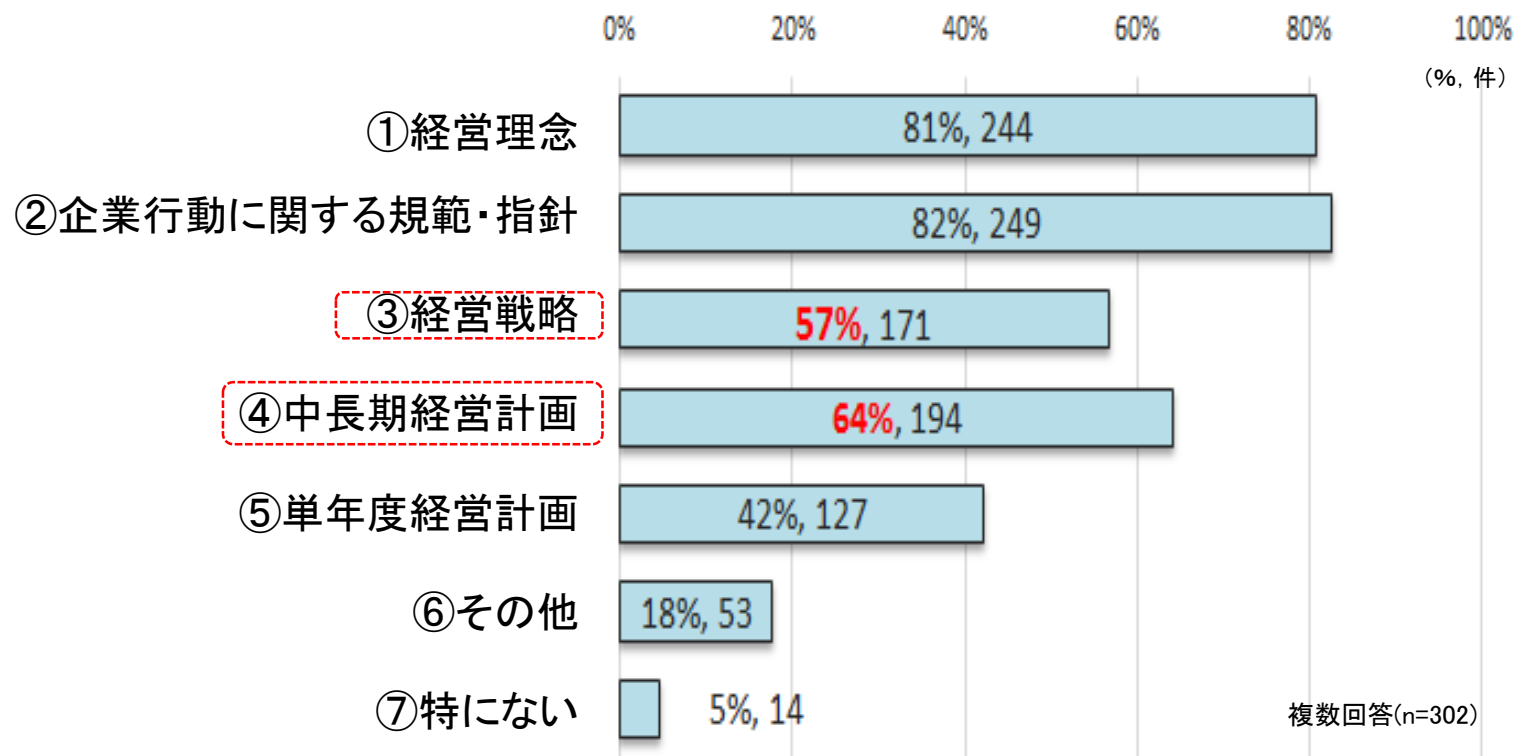
8. 社会参画と発展への貢献

9. 危機管理の徹底

10. 経営トップの役割と本憲章の徹底

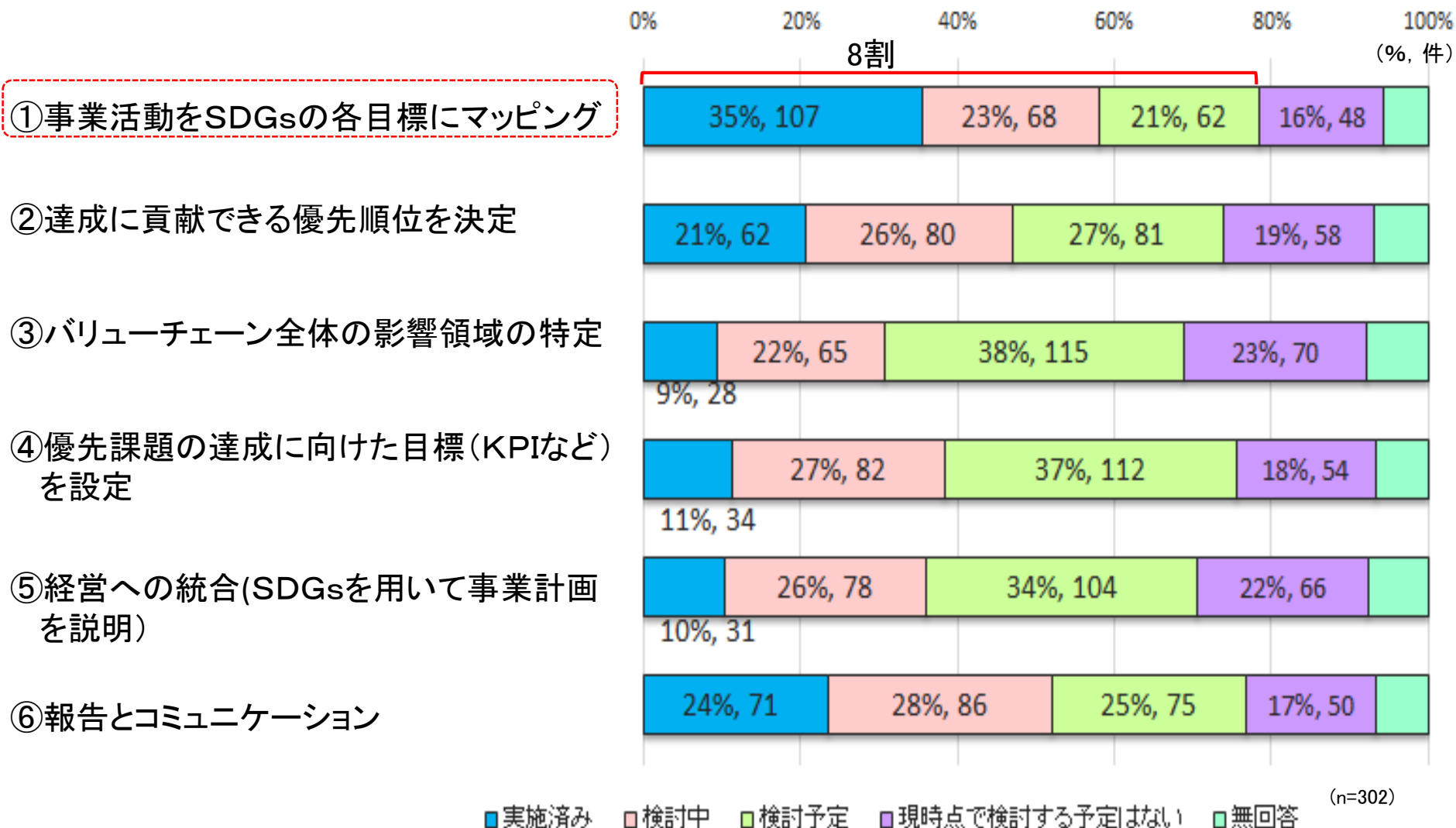
【回答状況】	調査対象	回答数	回答率
経団連企業会員	1,373社	302社	22.0%
【調査期間】	2018年3月～6月		

(1) 憲章の理念「持続可能な社会の実現」の経営への統合



(2) 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

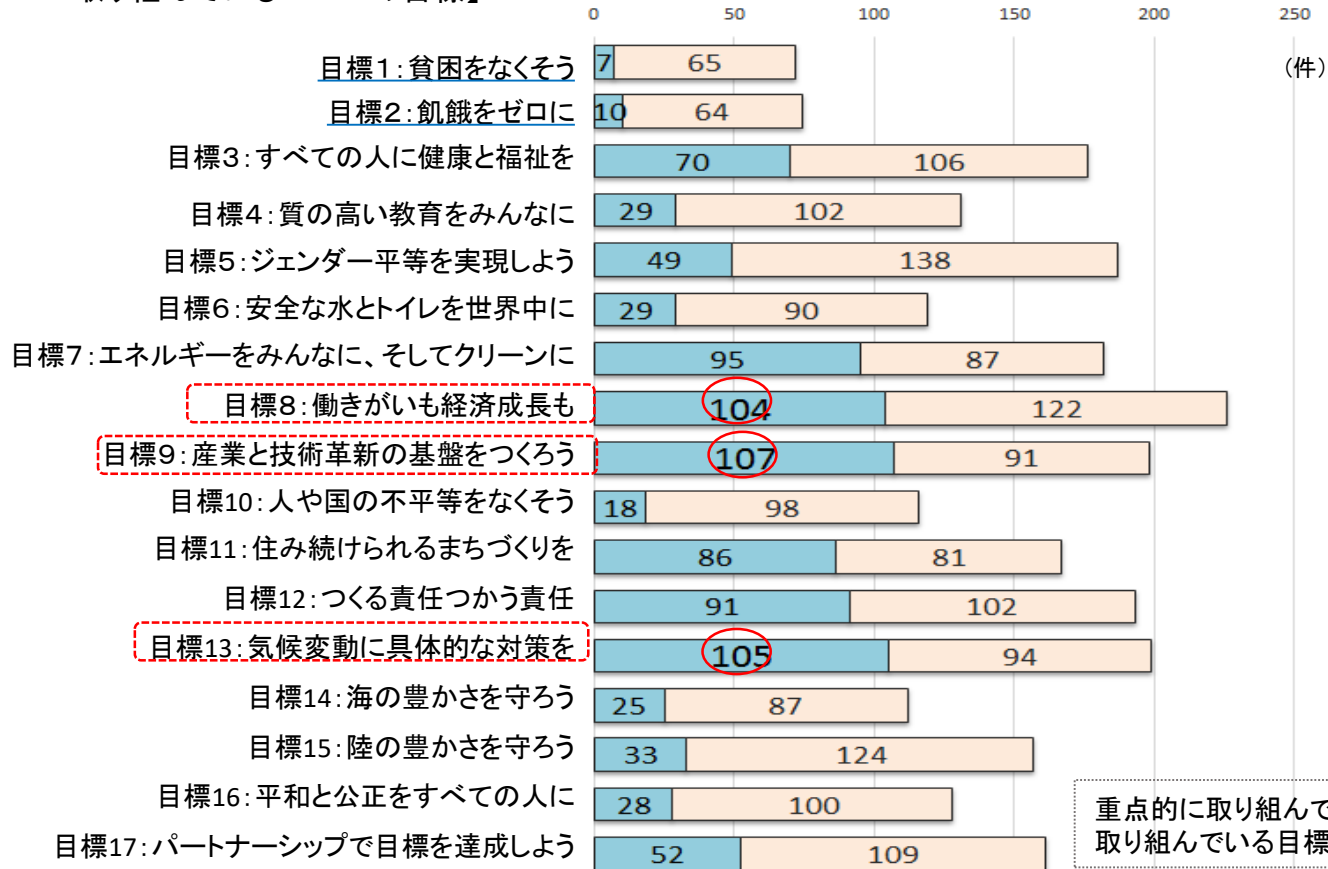
- SDGsを活用して既の実施している取り組みについては、SDGsの経営への統合の第1段階とされる「事業活動をSDGsの各目標にマッピング」でも35%となっている。しかし、「検討中、検討予定」の企業が実行に移せば**8割**となる。



(3) SDGsの17目標への取り組み状況

- 回答企業における重点的な取り組みとしては、①「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、②「目標13：気候変動に具体的な対策を」、③「目標8：働きがいも経済成長も」の順となっている。取り組んでいる目標をあわせた場合でも、同様の傾向となっており、事業との関連が高い経済・環境に関する目標への取り組みが進んでいる。
- 一方、国連が最も重視している貧困や飢餓への取り組みは少なく、これらの目標に企業が取り組むには、より具体的な課題提示や協働のプラットフォームづくりなどが必要になると考えられる。

【図表Ⅱ-5 取り組んでいるSDGsの目標】



重点的に取り組んでいる目標[◎、1つ]
取り組んでいる目標[○、複数回答]



本年7月、SDGsの目標ごとに企業のイノベーションを整理した、SDGsに資するイノベーション事例集「[Innovation for SDGs -Road to Society 5.0-](#)」を発表。日本語で165事例、英語で86事例であり、用いた技術やパートナー、定性的・定量的な評価・実績等が掲載

KeidanrenSDGs

HOME | Society 5.0 for SDGs | SDGs事例集 | 経団連について

Society 5.0 for SDGs

日本語 | English (USA)

企業名、タイトル

SDGsの目標

更新順

1ページ/28ページ

BIMやIoT・ロボット化による建設業の生産イノベーション
(株) 竹中工務店
BIMによる設計～施工段階の情報一元化、設計施工一環プロセスにおけるフロントローディングの推進や、省人化工法、IoT、ロボット技術の展開等により抜本的な生産性の向上を実現します。

【コンテンツ】

◆ Society 5.0 for SDGs

- ・ Society 5.0とは
- ・ Society 5.0に向けた第1歩となるイノベーションなど

◆ SDGs事例集

企業名、タイトル別検索、SDGs169ターゲット別検索、Society 5.0との関連絞り込み等の機能を備える



URL: <https://www.keidanrensdgs.com/>

経団連SDGs特設サイト「KeidanrenSDGs.com」を開設。
「Innovation for SDGs」の全ての事例を検索可能な形で掲載している
ほか、冊子版には掲載していない**最新の事例も掲載中**。事例は
随時更新予定。

SDG BUSINESS FORUM

High-Level Political Forum
United Nations | 17 July 2018



**Transformation towards sustainable
and resilient societies**

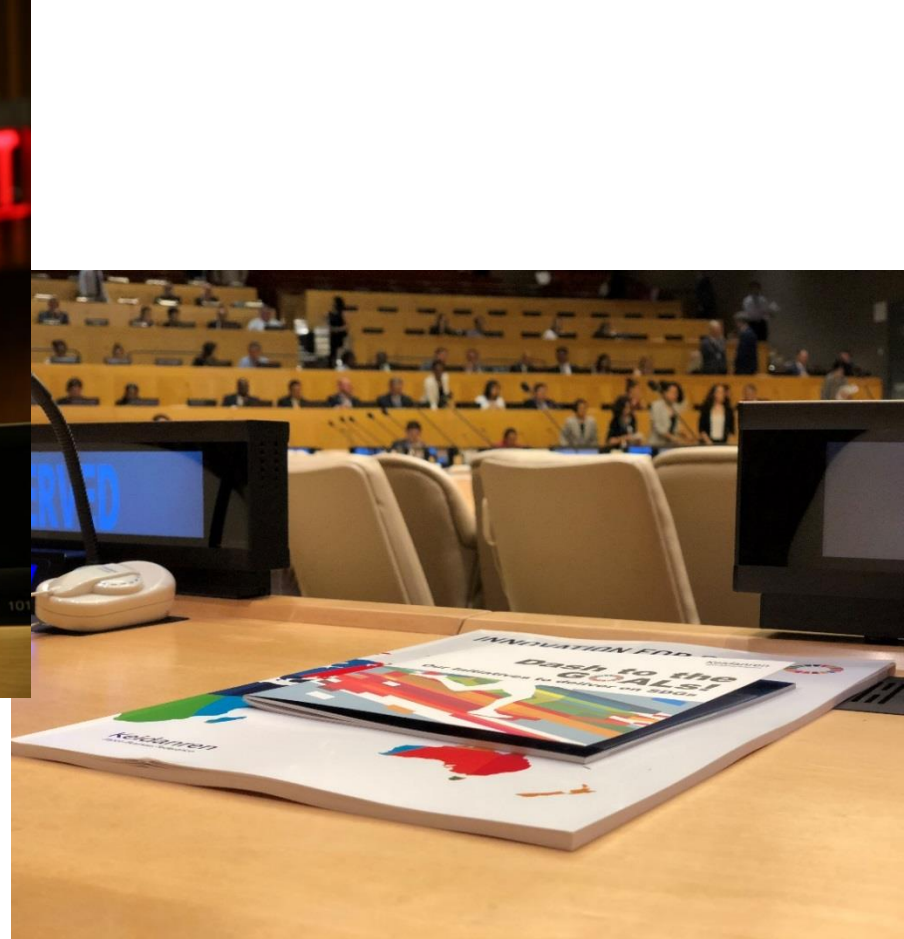
ICC INTERNATIONAL
CHAMBER
OF COMMERCE
The world business organization


UN DESA

 **United Nations
Global Compact**

Photo: UNDESA-DSPD Flickr

7月17日国連本部で開催された「SDG ビジネス・フォーラム」には650名（応募総数は去年の4倍の4,000名）が参加 [共催： 国際商業会議所、国連経済社会局、国連グローバルコンパクト]



経団連のSDGsへの取り組みをまとめた小冊子「Dash to the GOALS！」と事例集「Innovation for SDGs」を会場で配付し、Society 5.0 for SDGsの取り組みを、二宮企業行動・CSR委員長から説明。「SDGs特設ウェブサイト」の開設を発表。

◆国連機関との連携

Society 5.0 for SDGsという1つの方向に向かって日本の産業界全体が動く、システマティックな実践を評価。



【シュタイナーUNDP総裁】
2018年11月26日、UNDPと経団連(企業行動・CSR委員会)の間で、SDGs推進に関する覚書を締結



【モヒルディン世界銀行グループ上席副総裁】
世銀ではHLPFにあわせてSDGs各目標の進捗を可視化するデータを公表。経団連の小冊子や事例集は、SDGsを経営に統合する企業の意欲と能力を可視化している。



【ファビアンUNICEFイノベーション部門筆頭アドバイザー】
Society 5.0の一方で、数十億人の人々がSociety 1.0や2.0に取り残される。子どもたちを取り巻く深刻な課題を最先端技術を活用して解決するため、企業にはコア・コンピタンスを活かしてUNICEFと協働してほしい。

◆経済団体、SDGsネットワークとの連携



<国際商業会議所>

- SDG ビジネス・フォーラムで、経団連の発言の場をアレンジ
- デントン事務総長と二宮委員長が対談し、国連のオブザーバー・ステータスを持つ唯一の経済団体として、今後も経団連と連携していきたい旨の表明があった



<持続可能な開発のための世界経済人会議>

- 国連経済社会局との共催会合では、化学セクターのSDGロードマップ、人権に貢献するビジネス事例など、企業の実践に役立つ情報提供
- 日本メンバーとの個別会合を開催
- 10月のCouncil Meeting でSociety 5.0 for SDGsや特設サイトについて情報発信



<国連グローバル・コンパクト>

- UNGCとの個別会合、UNGC主要メンバー企業との懇談を実施
- 企業間連携の場としてのアクション・プラットフォームを提供
- 経団連との具体的な連携を相談予定



<米国国際商業会議所>

BUSINESS FOR 2030

- 企業の事例を集めたUSCIBのWEBサイト(Business for 2030)と経団連のSDGs特設サイトとの相互リンクを行う予定。

◆ 具体的な成果につながるアクションと連携が必要

- SDGs採択から3年が経過し、「持続可能で強靱な社会に向けたトランスフォーメーション」を実現するため、各国・組織の具体的な成果につながる「アクション」が求められる段階に移行(2019年9月には、最初の首脳級の進捗に関するフォローアップ会合を開催)。
- 企業には、コア・コンピタンスを活かした具体的な実践、その取り組みの成果を測定・評価し、報告することが求められる。
- その流れに沿ったものとして、経団連のイノベーション事例集やウェブサイトが評価された。
- 今後、取り組みの更なる規模拡大のためのオープンイノベーション、資金投入が求められる。
- 経団連としては、2019年のB20やTICADなども活用して、国連機関や国際的なSDGs推進ネットワークと連携して、Society 5.0 for SDGsの取り組みを、国際的に広げていくことが重要。

(1) 「企業行動憲章」改定のフォローアップ活動

- 企業行動憲章シンポジウムの開催(12月東京、2月大阪)
- 業界団体、地方経営者協会等と連携した説明会、講座等の実施

(2) Innovation for SDGs の更新・編集

(3) 国連機関、グローバルなSDGs推進ビジネス組織との連携

(4) SDGsへの取り組みのレポーティング、プロジェクト評価に関する検討

(5) 政府との連携

- SDGs推進円卓会議(二宮委員長が委員として参加)
- SDGsのための科学技術イノベーション(STI for SDGs)
- 内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」(三宅委員長が副会長として参加)

(6) SDGs推進に熱心に取り組むステークホルダーとの意見交換・連携

Keidanren
Japan Business Federation

経団連はSDGsを支援しています。

